

# 美里*SuperTown*プロジェクト 地域まちづくり計画



令和6年9月

美里町

# 取組の概要

## まちづくりにおける課題

人口減少の進行により、町内に点在する商店等の減少が想定され、町民の生活利便性の低下により、町外流出がさらに進行することが懸念される。町民の生活サービスを維持するためには、生活利便施設の計画的な配置と交通ネットワークの充実による都市構造の転換が必要である。

また、美里町は森林や農地などの豊かな自然環境に恵まれ、町内の約60%は自然的土地利用となっている。今後は、豊かな自然環境と共生した良好な住環境の維持・向上が求められ、さらに、自然環境の多面的な活用や住みよい環境を次世代に継承することにより、定住の促進と交流人口の増加につなげていく必要がある。

## まちづくりの方向性

### 【生活の利便性の向上】

町民の生活利便性を維持し、持続的に町内で暮らし続けるために、計画的な生活機能の誘導と拠点形成に向けたコンパクトなまちづくりを目指す。

また、町民生活の利便性向上のため、次世代技術の活用や民間事業者の活力の導入により、官民連携によるスマートなまちづくりを目指す。

### 【自然の多面的活用】

豊かな自然環境は本町の宝であり、自然環境と調和したゆとりある生活環境や生産性のある農業の経営基盤の維持・保全を図る。

また、保全だけではなく、再生可能エネルギーの活用や自然災害の抑制など多面的な機能発揮により、環境や防災分野と連携したレジリエンスなまちづくりを目指す。

## 他の計画における位置付け

- ・ 第5次美里町総合振興計画後期基本計画
- ・ 第2期美里町まち・ひと・しごと創生総合戦略
- ・ 美里町都市計画マスタープラン
- ・ 美里町地域防災計画
- ・ 美里町脱炭素ビジョン

## 対象地域及び区域

### まちづくり拠点地区(中心拠点)及び町全域



名称	まちづくり拠点地区 (中心拠点)
凡例	
概要	スマートIC事業と併せて整備した接続道路を中心に、町の玄関口としての機能を最大限活かした地区を整備する。これにより、新たなひとの流れをつくる地区とする。

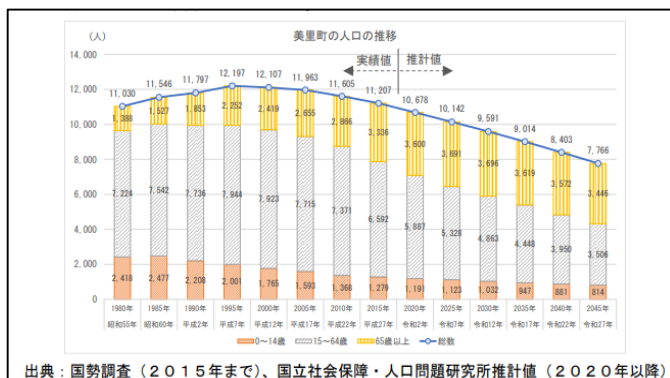
凡例 2 (面)			
	集落環境整備地区		新たな企業誘致重点地区
	生産農地		まちづくり拠点地区 (中心拠点)
	教育・文化・健康・移住地の核		6次産業拠点 (産直館等整備地区)
	自然緑地		まちづくり北部拠点地区 (住居・工業・流通・沿道サービス拠点)
	観光・スポーツ・レクリエーション区域		まちづくり南部拠点地区 (住居・工業・流通・沿道サービス拠点)
	工業地		

## 地域の現況

### 人口・世帯の状況

美里町の人口は平成7年をピークに減少に転じている。平成27年に11,207人であった人口が、令和12年に1万人を割り込み、令和22年には約8,400人となることが推計されている。また、年少人口(0~14歳)、生産年齢人口(15~64歳)は減少していくことが推計されている。

老年人口(65歳以上)は令和12年をピークに減少することが推計されるが、人口全体の減少率の方が高いため、高齢化率は一貫して上昇することが推計されている。



### 地域交通の状況

町のほぼ中央を東西方向にJR八高線が通り、松久駅があるが、単線で運行本数が少ないため利用者数は低迷している。一方、町役場のある中心部から車で15分のところには上越新幹線本庄早稲田駅(本庄市)があり、東京駅までの所要時間が約50分とアクセスが良く、通勤・通学で利用され、町民の利便性が向上している。

また、近隣市町を繋ぐ路線バスは、県道本庄寄居線に本庄駅南口と寄居車庫間を繋ぐ路線バスが運行されているが、利用者が少なく運行維持が難しい状況にある。

町民の主な移動手段は自家用車となっており、現在、自動車運転免許証を返納した高齢者等の交通弱者に対する支援としてタクシーを利用した補助制度を実施している。

しかし、令和2年度に実施したアンケート調査においては、公共交通機関の機能に対する住民の満足度が低く、交通手段の確保・充実が求められている。

### 開発の状況

JR八高線松久駅周辺や国道254号などの幹線道路沿いでは、建物用地の利用が見られ、住宅用地や生活利便施設用地としての土地利用が集積している。

昭和51年から平成28年までの土地利用動向をみると、国道254号や県道本庄寄居線などの幹線道路を中心に、町内全域に散在して都市的土地利用が広がっている。特に、農地から「建物用地」への転換がみられる。

森林や農地などの豊かな自然環境に恵まれているが、現在までに人口が集中している地域を中心に計画的ではない宅地化が進行しており、都市的土地利用の割合が広く増加している。これまでに農業と工業等が併存する土地利用を進めてきたが、今後はこれらが調和した、より良好な住環境を維持・向上し、住みよい環境を次世代に継承することが必要である。そのために、都市的土地利用の抑制だけではなく、メリハリのある計画的な土地利用のコントロールが求められる。

### 地域資源

美里町は、田園や里山等の美しい自然環境と四季折々の景観、多くの歴史的文化的財、脈々と継承される「猪俣の百八燈」や「関の獅子舞」などの伝統行事、豊かな農畜産物等、多くの地域資源を有している。

しかし、観光客の多くがブルーベリーの摘取りや猪俣の百八燈が開催される夏に集中しており、町内の豊富な資源を活かしきれていないことや地域の魅力が伝わっていないことが課題である。

一方で、令和3年3月28日に寄居スマートICが全面開通し、本町への広域交通の利便性が向上した。今後は地域資源を最大限活用することで地域の魅力を高め、さらに、地域の魅力を様々なコンテンツにより情報発信を行うことで、年間を通じて交流人口の増加に取り組んでいく必要がある。

# まちづくりのコンセプトと事業全体の概要

## まちづくりのコンセプト

「町民生活の利便性の向上」と「豊かな自然環境の多面的活用」を実現するために、本町の美しい自然環境と地域力を兼ね備えた“美力”あるまちの核を形成し、計画的な土地利用による周辺環境の保全を図ることで、サステナブルなまちづくりを目指す。

※「美力(みりょく)」とは、美里町の魅力を意味する造語である。

『生活と自然が共生する

持続的な “**美しい里**” の拠点づくり』

## 推進体制

美里スーパータウン構想の実現を目指し、事業毎に庁内関係課による会議体や調整の場を設け、円滑な事業の進捗を図る。

あわせて、事業の推進にあたっては、県関係課や民間企業、地元住民等と連携し、事業を推進する。

## 事業全体の概要

### 【コンパクト】

#### 都市機能の集積による生活利便性の向上及び賑わいの創出

- 買物や食事、医療、交流等の日常生活に必要な都市機能の集約
- 物流や工業など産業振興に資する土地利用を誘導し、産業を創出
- 美里中学校付近に教育機能(小学校を統廃合)を集約し、その周辺に公共施設や交流施設を整備
- 鉄道駅と周辺施設(バスターミナル、自由通路など)の整備による、新たな交通結節点の確保
- 官民連携による地域活性化施設の整備やテレワークの推進
- 都市機能の集約により高まる住宅需要に対応するため、計画的な宅地整備の推進

### 【スマート】

#### デジタル技術を活用した交通・健康等の日常生活の支援

- スマート技術を活用したスクールバスの運行や中心拠点地区と各集落間のスムーズな移動が可能となる体制の構築
- 住民の利便性向上のためオンラインでの行政手続きの導入
- 農業や交通不便地におけるドローンの活用
- 防災情報の発信等によるスマート防災ネットワークの構築
- 遠隔診療による地域包括医療の推進

### 【レジリエント】

#### 災害に強い地域の構築と脱炭素社会に向けたエネルギーの地産地消

- 耕作放棄地や低未利用地、公共施設等への太陽光発電や蓄電池の設置
- ソーラーシェアリングによる再エネ導入やバイオマス発電施設の整備
- 公用車をEV化し、災害時に電気を供給できる仕組みを構築
- 災害時でも途切れない電源を確保した防災公園整備
- 民間事業者等との防災協定を締結し、災害に強い地域を構築

# 計画図

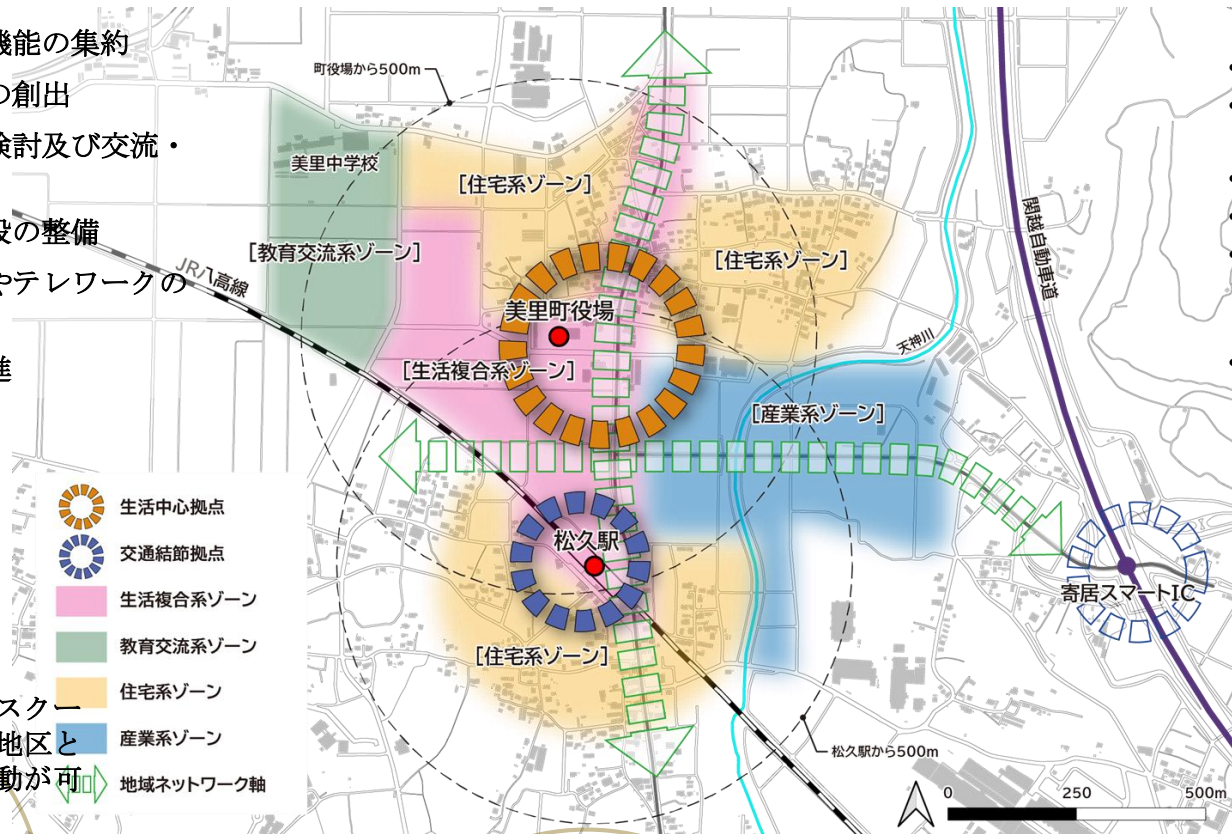
## 美里 SuperTown プロジェクト

### コンパクト

- 日常生活に必要な都市機能の集約
- 物流や工業などの産業の創出
- 町内小学校のあり方の検討及び交流・公共施設の整備
- 便利な鉄道駅と周辺施設の整備
- 地域活性化施設の整備やテレワークの推進
- 計画的な宅地整備の推進

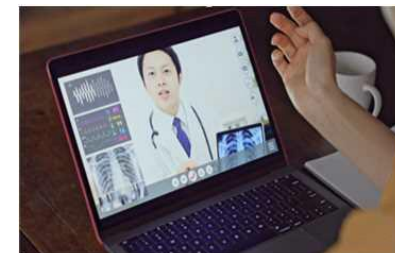
### スマート

- スマート技術を活用したスクーリングバスの運行や中心拠点地区と各集落間のスムーズな移動が可能となる体制の構築



### エリア全体

- オンラインでの行政手続きの導入
- 農業や交通不便地でのドローンの活用
- スマート防災ネットワークの構築
- 遠隔診療による地域包括医療
- 耕作放棄地や低未利用地、公共施設等への太陽光発電や蓄電池の設置
- バイオマス発電施設の導入



### レジリエント

- 災害時に備えた公用車のEV化
- 防災公園の整備
- 民間企業等との防災協定締結



# 【コンパクト】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール					備考
			R6	R7	R8	R9	R10	
日常生活に必要な都市機能の集約	町 民間企業	買物や食事、医療、交流等の日常生活に必要な都市機能の集約	検討・調整					
産業団地の整備	県企業局 町 民間企業	物流や工業など産業振興に資する土地利用を誘導し甘粕地区に新たな産業を創出	実施設計 用地買収	造成		譲渡	運用	
教育機能の集約	町 民間企業	美里中学校付近に教育機能を集約し、その周辺に公共施設や交流施設を整備	町内小学校のあり方の検討、基本設計・実施設計、新校舎の建設・外構工事				運用	
交通結節点の整備	町 民間企業	交通結節点として乗り換え時に便利な鉄道駅と周辺施設の整備(バスターミナル、自由通路など)	事業計画・設計・整備				運用	
居住環境の保全	町 民間企業	機能集約等により高まる住宅需要に対応するため、計画的な宅地整備を推進	土地利用の変更・補助事業や手法の検討				住宅整備の推進	

# 【スマート】事業一覧

事業名	実施主体	事業内容	スケジュール					備考	
			R6	R7	R8	R9	R10		R11以降
自動運転技術を活用したスクールバスの運行	町 民間企業	スマート技術を活用したスクールバスの運行体制を構築	町内小学校のあり方の検討、基本設計・実施設計、新校舎の建設・外構工事【再掲】					運用	
			スクールバスの導入検討					運用	
								自動運転導入の検討	
スマート技術を活用した移手段の確保	町 民間企業	スマート技術を活用したモビリティにより、中心拠点地区と各集落間のスムーズな移動が可能となる体制を構築	検討・連携する民間企業の探索					実証事業	
オンラインによる「行かなくていい町役場」の構築	町	住民の負担軽減のため、電子申請や施設予約、公開型GISや電子請求システムの導入など、オンラインで行政手続きを行うことができる「行かなくていい町役場」の実現	整備	運用					デジタル田園都市国家構想推進交付金 (TYPE1)
農業や交通不便地におけるドローンの活用	町 民間企業	ドローンを活用した農業(農薬散布、農作物集荷等)や交通不便地域における即日配送の実現	検討						
スマート防災ネットワークの構築	町 民間企業	まちづくり中心拠点の防災力強化としてデジタルサイネージによる防災情報の発信	検討						





# KPI

コンセプト	指標	基準値(調査時点)	目標値(達成年度)	備考
コンパクト	立地適正化計画の策定	—	策定(R7)	第5次美里町総合振興計画 後期基本計画
コンパクト	新規に誘致する企業数(社)	0(R5)	3(R7)	第5次美里町総合振興計画 後期基本計画
スマート	LINEによる申請等受付数(人)	—	6,000(R8)	デジタル田園都市国家構想交 付金(デジタル実装タイプ) KPI
レジリエント	公共施設への太陽光発電施設の導入	—	再生可能エネルギー 導入率 50% (R12)	美里町脱炭素ビジョン